

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	河寄 唯衣 【ライフサイエンス専攻 平成27年度生】	要 旨
論 文 題 目	病院食の摂取量評価における目測法の検討	<p>本研究は、我が国における目測法を用いた病院食の摂取量評価の現状を調査し、その妥当性に影響する要因を踏まえて妥当性の向上に向けた方策を検討することを目的とした研究である。以下の3つの研究が含まれる。</p> <p>研究1 目測法を用いた病院食の摂取量評価業務に関する質的検討 質的研究法を用いて、業務実施者の視点から、目測法を用いた病院食の摂取量評価の現状を調査することを目的とし、医療従事者 20 名を対象に、インタビュー調査を実施した。看護師、看護補助者、管理栄養士、介護者が、日常業務として目測法を用いた病院食の摂取量評価を実施していたが、評価の頻度や方法は職種ごとに異なっていた。</p> <p>研究2 目測法の妥当性・信頼性及び妥当性・信頼性に影響する要因の検討 研究2-1 一般治療食を対象とした検討 目測法の妥当性、妥当性に影響する要因を検討するために、一般治療食 450 食を対象とし、調査を実施した。その結果、看護補助者、管理栄養士共に、目測法と秤量法の評価結果に高い相関が示された。主食の高い喫食率が、秤量と目測の誤差と有意に関連していた。</p> <p>研究2-2 特別治療食等を対象とした検討 異なる食種や補助食品の付加による妥当性の違いを検証するために、調査を実施した。一般治療食及び特別治療食計 335 食を対象に妥当性を検討した結果、様々な食種や食形態において、目測法と秤量法の相関は高かったが、補助食品を付加した食事は妥当性が高くなかった。</p> <p>研究3 目測法の評価者訓練を経験した者の特徴 目測の訓練経験を有する者の特徴を検討するために、都内の3病院に勤務する看護師及び看護補助者 199 名を対象に、質問紙調査を実施した。その結果、目測法に関する訓練経験を有する者は、訓練経験のない者と比較して、より多くの知識を持ち、より頻繁に目測法の技術を使用していた。</p> <p>本研究から、病院食の目測法の妥当性が確認され、評価者の訓練プログラムを開発する上で有用な知見が示された。</p>
審 査 委 員	(主査) 教授 赤松 利恵	
	准教授 須藤 紀子	
	教授 飯田 薫子	
	講師 市 育代	
	教授 村田 容常	